

初秋のいろ

いつにもまして涼しかったこの夏
つよい日ざしを感じる間もなく
いつのまにか秋の気配...

ひさしぶりの太陽の下で
夏の最後を奏でるせみの声
そして、ひそやかな虫の音

夕方まで咲きつづける朝顔
ちよつとうつむきかげんの向日葵
いろどりを増す秋桜の花
朱いろづく実・ななかまど

夏と秋のちょっとした同居

身近な自然の不思議を感じながら
ちいさな感動をたのしんでいきたい

目次

- P1 味あらかると
- P2 楽しいよ、子どもぴぴっとクラブ
- P3 虹のひろば・さんやそう
- P4~5 未来を生き抜く力を育てる新聞教育
- P6 Q & A
- P7 まうすりいだより
- P8 新聞まめちしき・秋だより・
編集後記



味あらかると

今年の夏、七月三十一日・八月一日の両日鳥根県松江市で開催された第八回NIE全国大会と引き続き八月六・七日北九州市小倉で行われた第四十六回全国新聞教育研究大会参加という幸運に恵まれた。(内容はすでに各紙詳報)

その折、各会場で出雲市長西尾理弘著「教育行政改革への挑戦」、北九州市立松本清張記念館館長藤井康栄著「松本清張の残像」という感銘深い二冊の本に出合った。

松本清張の作品はテレビの映像を通して接するだけで、あまり読んだことはなかったが、その生き方にはなぜか心惹かれていた。

小倉城に隣接する記念館には、社会派推理小説、歴史小説、現代史、古代史の研究など広範囲な創作活動と「人間・松本清張」を体系的に理解できるように、ビジュアルな手法で展示・紹介されていた。また前述の著者によると「若い時から、新聞記者にも小説家にも歴史家にもなりたかった松本清張は、そのすべてに領域を越えて挑戦し、確かな手応えを掴んだ。たゆみない努力によって逆境をはね返し、才能を開花させた見事な生涯だった。」と書き記されている。

二冊の本から、物の見方考え方、取材力と物事の本質を鋭く見抜く慧眼に敬服し多くを学んだ。

切ってみよう 貼ってみよう

スクラップづくりに挑戦



7月5日(土)
於 生涯学習センター
「遊・YOU 学園」
参加人数 小学生 20名

第2回

子どもびびっとクラブ

小学生の子どもたちを対象に、遊びを通して新聞に親しみ、自然に表現力や国語力を身につけてもらおうという趣旨で、びびっと研究会が主催している会です。



写真・イラスト・見出しなど、テーマを決めて切り抜いてみよう。
切り抜いた記事を、台紙に貼ってみよう。

以上のような手順で、子どもたちはスクラップづくりに挑戦です。

みんな夢中になって作業を進め、記事の選び方・切り抜き方・貼り方など、それぞれに個性的なスクラップをつくっていきました。

外国ではどんな新聞が出されているかや、日本の新聞との違いについてなども勉強しました。

講師 国際交流ルーム 薄衣景子さん



開講二年目となった今年度、6月の第一回をかきりに『子どもびびっとクラブ』が始まりました。今回は、7月に行った第二回目と、沢内村での出前講座のようすをご紹介します。と思います。

楽しいよ！子どもびびっとクラブ

7月18日(金)
於 沢内村立猿橋小学校
参加人数 小学生28名
(2~4年生)

出前1

子どもびびっとクラブ

第3回子どもびびっとクラブは、初めての試みとして小学校の総合学習の一環ということで、出前講座を行いました。

はじめて出会った子どもたち、はきはきとした態度に力をもらって、楽しいひとときを過ごしてきました。猿橋小学校の皆様、大変ありがとうございました。



『カタカナがいっぱい！』
新聞1面の上半分に載ったカタカナを、5分間でいっぱい探しました。



『見出してなーに？』
新聞記事探し・見出し探しを行ったあと、自分の好きな記事を切り抜いてスクラップづくりに挑戦しました。



ガマ刈り記

沢内村立 せんだん保育所
所長 佐藤 りき子



ガマを整理するお年寄りと園児

性格が形成される幼児期において、祖父母（お年寄り）との交流は特に大切にされなければならないことを、保育の現場にいる者として常に感じている。

保育所でも、いろいろな機会や場を通して交流を心がけているが、毎年行われるガマを使ったぞうり作りもその一つである。今年も6月17日（火）老人クラブ7人とボランティアの方においでいただき、わらぞうり作りのもとになる「ガマ刈り」を、3歳以上児の「ひまわり」「ゆり」「すみれ」の各組が行った。

ガマを刈る場所は、南太田の深沢卓生さんの休耕田。

福祉バスを利用させていただいて目的地の田んぼに着くと、子どもたちはさっそくガマの茂みに入ってかくれんぼをしたり、カエルを捕まえたり、泥だらけになって田んぼから土手にはい上がったりと、まるでサバイバル体験そのもの。ぬかるみにはまった友だちをみんなで必死になって引っ張り上げる姿は、さながら「おおきなかぶ」の一場面であった。

おじいさん、おばあさんが刈ってくれたガマを一生懸命運んで保育所にもどり、筒状のガマを1枚1枚はぎ取る作業をする。

作業を見ながら、「おじいさん、おばあさん速いなあ」という5歳児のお年寄りに対する尊敬の念をこめた表情や言葉に、お年寄りとの交流体験の成果をみる思いがした。

刈り取って干したガマは、1月のわら細工で、父母がお年寄りから教えられて「なわなひ」をしながらぞうりにする。これは、昔よりも遅れがちと言われている、子どもたちの土踏まずの形成を促すことを目的に作られるもので、このような伝承活動は、かれこれ十数年続いている。

「丈夫で元気に育って欲しい」という願いがこめられた手作りのぞうりをはき、元気に遊ぶ子どもたちの姿を見るにつけ、協力してくださるお年寄りへの感謝の気持ちでいっぱいである。



ウメバチソ

さんやそう 5

8月も半ば、この時期は山野草の草丈も伸びきっており、鉢に見合う花が極めて少ない。山野草店や市場からは和物が消えてしまうのだそう。勢い愛好家の目はコマクサやハクサンフウロウなど高山植物の方へいってしまう。

しかし、植物界の勢力もまた然るもの。明るい所から暗がり、湿地から岩場、海岸から高山と、あらゆる所に進出してそれなりに住み分けしているのが植物界である。

そんなわけで花の写真を撮りに奥山に出かけた。ねらいは林道の法面や崖。そこにはキンレイカ、ウメバチソウ、ノウゴウイチゴ、クサボタン、ツリガネニンジン、トウキ、ニッコウキスゲ、ソバナなどが厳しい斜面を我が世の春（夏？）とばかり咲き誇っていた。

写真のウメバチソウは、登山道の脇や湿地でも普通に見られる花であるが、林道の法面に雪が降ったかのごとく群生している様はまことに見事なものである。 たまたま、ここは車も通らず時期的にも人がほとんどくることがない私の楽園なのである。

（文・写真 沢内村 大石信夫氏 提供）

「未来を生き抜く力を育てる新聞教育」

- 情報の再構成・発信力の育成をめざして -

～ 第46回全国新聞教育研究大会・北九州大会の報告～

7月31日・8月1日は松江市でNIE全国大会が、8月6日・7日は北九州市で全国新聞教育研究大会が相次いで開催され、ぴぴっと研究会からも4名が参加しました。様々な実践発表などに刺激され伝えたいことが山ほどありますが、紙面の都合上、主に全国新聞教育研究大会について報告します。

- 記念講演 -

「情報化社会に必要なものは」

講師・・・東京大学名誉教授・静岡文化芸術大学学長 木村尚三郎先生

たくさんの情報があふれる現代社会では自分の目、耳、皮膚等、五感を使い人間本来の姿になり、知力を養うことが必要であることと、このような時代だからこそ自分で現場に行き、本当の事を知る必要性を話された。

- 分科会 -

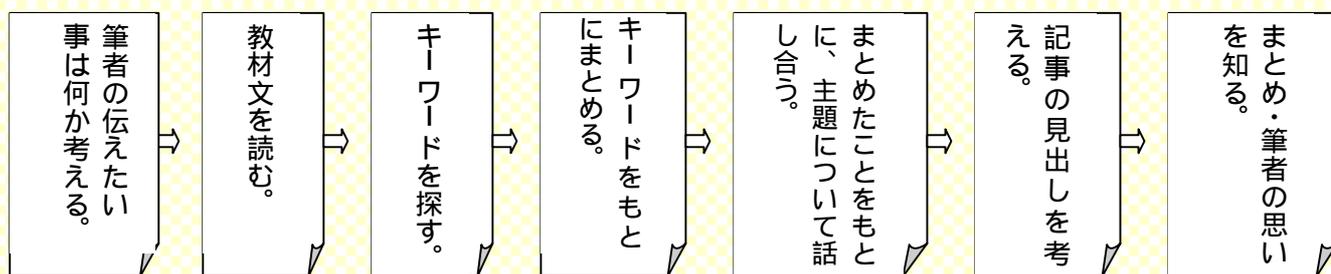
NIE 模擬授業 (小学校)

帯広市立つつじが丘小学校の早川一之先生を講師とした、NIE 模擬授業が行われました。

めあて

- 新聞記事を正しく読み取り、その内容をまとめる。
- 筆者(記者)の伝えたいことを理解する。

授業の流れ



～ 模擬授業に参加して～

分科会が始まるのを待っていた私は、係りの人に促されるままテーブルについた。テーブルの上には、子ども向け新聞のコピー（見出しは隠されている。）とマーカーペン。まわりは学校の先生方、私はといえば、ぴぴっと(PPT)研究会に参加をしている一主婦。気後れがする。

模擬授業は新聞記事を教材とした国語の読み取りの授業。特に詳しい説明も無く、普段通り(?)に授業が始まった。

「はじめに新聞を読んで、重要な言葉に線を引いてください。次に、今線を引いた言葉に自分の持っている知識などを入れながらまとめてください。」と言われた。まわりの席の先生方は、学校で実践を積んでいるだけのことはあり、さらさらとまとめていく。私一人取り残された感じで、仕方なく箇条書きにする。

授業は進み、隠してあった見出しを考えることに。出席者からは、「なるほど。」と思える見出しが発表された。

まとめの質疑応答では、出席された先生から「キーワードを使ってまとめるやり方がピンと来ず分からなかった。」との質問に、「新聞を作るときのように、イラストを使ってまとめると分かりやすい。」との、アドバイスを受けた。

子どもたちは、キーワードを使ったまとめまでを、わずか十分程で終わらせてしまうとのこと。繰り返し訓練をすることで、短時間で正確に読み取りができるようになることに驚きを感じた。そしてまた親の一人として、このようなすばらしい先生から学ぶ機会に恵まれた子どもたちをうらやましく思った。今回この研究会に参加し、本当に良い経験をさせていただいた。今後の活動に活かしていきたい。

よりよい PTA 新聞 の作り方

朝日新聞西部本社の恵雅彦氏の指導により PTA 新聞づくりのノウハウについて講義を受けました。その中から特に印象深かった『見出し』についてお伝えします。



見出し ABCDE

「見出しは 8 ~ 10 本(字)の世界」、「見出しは見せるもの、読ませない」と言われます。一読してスッと頭に入るものでなければなりません。

- A : Attractive 魅力的・・・話題ものでは、だじゃれ・ごろ合わせなども使ってみよう
- B : Brief 簡潔・・・助詞は省略できる場合が多い。「、」「・」も活用しよう
- C : Correct 正確・・・記事の内容を逸脱しないように
- D : Dignified 品位・・・興味本位や断定的な表現におちいらぬように
- E : Easy 平易・・・難解な言葉や、安易に横文字を使うのは避け、主語やテーマをはっきりさせる

ポイントをつかめ！

5W1H (いつ・どこで・だれが・何を・どうした・なぜ) に、「どのくらい」を加えた 7 要素のうち、どのデータが重要か判断して、焦点を当てたい順に表現します。

あれもこれもとついついくどくなってしまいがちな見出し。でも、何に焦点を当てるかでこんなに明確に違いがみえてくるとは…。目の覚めるようなお話でした。

いつ	どこで	だれが	何を	どうした	なぜ	どのくらい
三〇年前からだます	大阪府警で不祥事	警官が詐欺の疑い	土地売買巡り詐欺	詐欺の疑いで逮捕	借金返済困り詐欺	5 億円を詐欺容疑
詐欺容疑で警官を逮捕	詐欺容疑で警官を逮捕	大阪府警が逮捕	容疑の警官大阪で逮捕	大阪府警の警官	容疑の警官大阪で逮捕	大阪府警が警官を逮捕

右の架空の記事で、七要素のどれかに焦点を当てた見出しの例です。

大阪府警の警察官が、三十年間にわたり、土地の売買をめぐって知人をだまし五億円を受け取っていたとして、詐欺容疑で逮捕された。調べでは、逮捕された警察官は、多額の借金を抱えており、その返済に充てていたらしい。

第 8 回 NIE 全国大会テーマ

「明日に生きる力を育むNIE」

7/31・8/1

～ 学校・家庭・地域とともに ～

新聞を学校教育の現場で活用する NIE (新聞に教育を) の第 8 回大会が島根県松江市で開かれ、全国 43 都道府県から教員・新聞関係者ら過去最高の 603 人が参加、実践発表や議論が行われました。

「NIE・子どもから大人まで 島根からの提案」として「生涯学習型 NIE」が、島根県の実践者から提案されていました。これは本大会の特徴でもあり今後の NIE 活動の方向性を示すものであると考えられます。このことは、ぴぴっと研究会が実践してきた「幼児から大人までの地域における新聞教育」のあり方と方向性が同じであり、今回の大会参加は、活動に対する自信にもなり大変有意義なものでした。

Q: 依頼記事について注意することを教えてください。

(北上市 中学校PTA会員)

会報作成に当たっては広報委員の主体原稿が中心となりますが、編集上の観点から原稿を依頼する場合、下記のような点について留意する必要があります。

原稿依頼の例としては、先生方やPTA会長に、今日行われたPTA総会についてそれぞれの立場でその感想や抱負を書いていただくとか、また企画記事等で「地域の20年前を探訪する」というときに町の古老に原稿をお願いする、校長先生に「今の生徒と昔の生徒」というテーマで原稿を書いていただくなどの場合があげられます。

依頼に当たって注意すること

1. 依頼文書を必ず添付すること

(例)

平成 15 年 9 月 1 日

黒沢尻 区長 松本清張様

北上市立びびと中学校

PTA 会長 北上 太郎

広報委員長 和賀 花子

会報「びびと」にいつもご協力とご支援をいただきありがとうございます。
PTA 会報「びびと」次号(100号)に、ぜひあなたの原稿をいただきたく、下記要項でお願い申し上げます。

記

テーマ	「区で頑張る中学生ボランティア」について(趣旨、依頼の内容をはっきり書く。)
字数	800字・15行以内(同封の原稿用紙を使用のこと)
締切り	平成15年9月×日必着
写真	L判程度の顔写真(正面)を一枚同封ください。
届け先	びびと中学校広報委員長 和賀花子まで
その他	編集の都合上、紙面変更する場合がありますので、あらかじめ御了承ください。

2. ✕切り日を明示。(なるべく早めに設定するとよい)
3. 割り付け用紙と同じ字数、行数の原稿用紙に縦または横書きを明示。
(ワープロ原稿も可などを付け加えるとなお親切)
4. 編集の都合上原稿に手を加える場合もある旨、知らせておく。
5. 写真は顔、上半身または全身かを指定し、大きさも書いておく。
6. 見出しは編集部任せにしよう。
7. 届け先を明示。
8. 手紙依頼は返信封筒に切手を貼って同封。原稿を変えた場合、事前に電話するか直接目を通してもらうのが望ましい。
9. 原稿依頼は、同じ学年や特定の人に片寄らないように気をつける。

ささやかな継続

まうすりいだより

⑤

参加者寄稿のコーナーです

高橋由紀子

今年私は、超多忙です。私が20歳の頃からささやかに続けております華道の研修が年4回あるからです。春夏秋冬、京都に5泊し、季節の花を生けてくる研修で今年が3年目で卒業の年にあたります。(この研修は、3年続けて行ってもよいし、研修の年は、自由に選択できます。)

なぜ、家庭を放り投げて迄、行く必要があるのか。

11年前、私とおなじ3人の子どもさんをもつ近所のおかあさんが交通事故で亡くなりました。38歳の若さでした。この時、私は自分がもし同じ立場だったら悔いのない人生だったと思えただろうか？自分は、今何をしたいのかを考えさせられました。前々から京都に行って勉強したいと思っていた気持ちが募り、家族の理解のもと決行しました。子どもたちの成長をみはからい平成12年に2年目を終了し、今年が3年目の決行の年と昨年から計画を練り家族に頭をさげ、勉強をさせて頂いております。同じクラスには、北は札幌、南は九州鹿児島、おとなり韓国からも京都に研修を受けにきておりました。

さらに、中2の娘のバスケの父母会の役が回ってきて、練習場所の確保や練習試合の追っかけで、パニックとなっています。お花とバスケの応援、それぞれ目標に向かって今できる事を一生懸命やろうと思っています。

思い起こせば2年前、私はジャンケンで負けたが故に、広報の委員長になってしまいました。新聞づくりはど素人ですが、「作るんだったらよいものを作りたい」というのが私をはじめ広報委員さんたちの全員の意見で

した。新聞づくりの大家の小笠原味佐枝先生に薫をもつかむ気持ちですがったところ「まうすりいっていうのをやっているから その時に指導してやっから」という甘い言葉に誘われて参加することとなりました。

まうすりいとはどんなところか?わからないまま参加してみると、自分がいかに新聞も読まずに生活しているか反省させることばかりでした。みなさんのお話を聞くだけでも勉強になると思い、ささやかに続けております。世の中の変動を身近に察知できる新聞の大切さを改めて感じると共に、学校新聞づくりの大切さも学んだ気がします。学校の変動、身近な話題、共通することばかりでした。

この年の岩手県の新聞コンクールで、最優秀賞を頂きました。(味佐枝先生には感謝、感謝、感謝でした。)そして、広報委員の仲間と祝賀会をしたときは、なりたくない広報委員長でしたが、やってよかったと思いました。

もしよろしければ広報委員長になったお母さま方、まうすりいにいらしてみてください。新しい発見があるかも知れません。

ささやかな継続が人との出会いをつくり人生を楽しくしていくものと今、痛切に思っております。



新聞を読んで今を語る会(通称まうすりい)は、複数の新聞を読み比べ、社会情勢から身近な出来事まで、いろいろな事柄について楽しくディスカッションしながら、おたがい刺激しあって自分を高めていくことを願いスタートした会である。ぴぴっと研究会では、平成13年4月より「まうすりい」を開始。平成15年8月現在29回を数える。

毎月第2火曜日、10時から12時まで北上市立黒沢尻北公民館を会場に開催中。参加希望者はどなたでも大歓迎!!

最近あることに気づいた。どうも私が遠くへ旅行すると何か大きなことが起きるらしい。思い返せばよくちよくあった。

一回目はもう二十年前になる。ひとりで奈良に行く途中のこと。八時間も急行に揺られてたどり着いた東京駅にはなぜか人があふれていた。新幹線の富士川鉄橋が大雨で流され復旧の見通しも立たないというのだ。今更帰ろうとは思えない。在来線を乗り継いで行ける所まで行こう、と動き出したのは午後一時を過ぎたころ。夜八時、名古屋

屋に着くまでに何本乗り換えたことか。途中、流された鉄橋のすぐわきを代行のバスで通ったときに見た濁流の恐ろしさは忘れもしない。

二回目はあの阪神大震災。熊本に住む姉を訪ね、帰る日の朝テレビをつける、コンビニの棚の商品がさまざまに勢いで振り落とされる光景が目に見えび込んできた。またもや新幹線が止まっているらしい。それでもどうにかなるさと姉の家をあとにした。結局、広島どまり。とつと帰るにはそこから飛行機しかなかった。

そして今回の福岡の旅。またもや帰る日の朝、あちこちに被害を及ぼした台風十号が私の行く手を阻みにきた。福岡空港を飛び立ち台風の雲に近づくとつれ、穏やかだった空の様子が一変。機体はちよっとしたジェットコースター並みに上下し始めた。天候不良のためとはいえ山形なんぞに連れて行かれるよりは、ほんの二十分くらいなら空中遊泳を楽しんだ方がマシ・・・とは思っもの、恐いものは恐い。

「あんたが九州に来ると何か起きるみたいやね。」と、電話の向こうで姉。私もつくづくそう思う。何事もなく帰ってきたことにほつと胸をなでおろしている。(N)



このコーナーは会員が最近感じたこと・出来事など交代で担当します。

新聞まめちしき

日清戦争と新聞 その19

明治27年日清戦争が勃発した。日本の近代的国民軍がはじめて経験する対外戦であった。かつての武士階級という職業軍人だけの戦いとは違い、全国から召集された兵士が戦場へ赴いた。全国民が戦闘の成り行きに関心をもったのは当然である。

この時はじめて新聞は全国の津々浦々まで普及したといっよいだらう。新聞も戦争のニュース報道に全力をあげた。「号外売り」という新商売が現れたのもこの時期である。

びびっと(PPT)研究会の主な活動内容

びびっと(PPT)研究会は新聞教育という分野を中心に研究・実践しながらその普及を図っていかうとする会です。

子どもびびっとクラブ

びよびよびびっとクラブ

(幼児への読み聞かせ等)

新聞関係各種講習会(講師を含む)

新聞を読んで今を語る会(通称:まうすりい)

びびっと相談室

その他

編集後記

このごろ夜になると虫の声が聞こえてきて、秋だなって感じます。そういえば近所の花壇にもコスモスが。夏の暑さを感じないまま秋に突入でしょうか。

ご意見・ご感想をおまちしております

TEL・Fax 0197-64-0758

E-mail: agi@titan.ocn.ne.jp

びびっと(PPT)研究会